

「北方領土返還要求中央アピール行動『アピール行進』」
出発式における尾身朝子外務大臣政務官挨拶文

本日御参集いただいている皆様におかれましては、日頃から北方領土問題の解決に向けた環境整備、国民世論の啓発と結集のため、様々な活動に御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

日露間の最大の懸案事項である北方領土問題が今もなお解決されておらず、両国間で平和条約が締結されていないことは誠に遺憾であります。政府としましては、高齢となられている元島民の皆様の故郷への思いを胸に、北方領土問題の解決に取り組まなければならないと考えています。私自身、本年9月に国後島を訪問し、この思いをさらに強くしました。

昨年11月のシンガポールでの日露首脳会談で、両首脳は、1956年共同宣言を基礎として平和条約交渉を加速させることで合意し、様々なレベルで交渉を重ねてきています。先月22日も名古屋で日露外相会談が行われました。

また、2016年の長門会談で、両首脳が、自らの手で平和条約を締結するとの真摯な決意を表明し、北方四島における共同経済活動に関する協議が開始され、本年、観光及びゴミ処理分野のパイロット・プロジェクトを実施することができました。実施に当たっては北方領土隣接地域の皆様にも大変な御尽力をいただき、御礼申し上げます。元島民の方々のための人道的措置についても、航空機墓参が3年連続で実現し、本年はこれまで何年も訪問できなかった場所にも訪れることができました。こうした協力についても、引き続き前進させてまいります。

政府としては、領土問題を解決し、ロシアとの平和条約を締結するとの一貫した方針の下、引き続き精力的に交渉に取り組む決意です。

本日の行進のように、根室管内の皆様が中心となって全国民に訴えかけることが、我々の交渉の強力な後押しとなります。北方領土問題の解決に向け、力強い御支援と御協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。